

JA全農 WEEKLY

5面

「第1回 全農 全日本中学生カーリング選手権大会」開催 初の日本一を目指し8チームが熱戦(広報・調査部)

2面

子育て世帯への食料支援に商品が無償提供
子どもを誰一人取り残さないための取り組み(経営企画部)



乾麺、調味料などを子育て世帯への応援ボックスに提供(2面)



米国ダンス大会優勝の一条未悠さんに1年分の米を贈呈する金成広之副本部長(8面)



全日本中学生カーリング選手権大会の決勝戦で奮闘する選手(5面)

2 大学生に全農の輸出事業について講義(輸出対策部)

3 鳥取県産ナガイモ「ねばりっこ」使って新商品(鳥取県本部)

仙台市の専門学校生に農業実習を実施(全農東北プロジェクト)

全農グループ総務・人事関連講演会を開催(総務人事部)

4 JA施設の衛生管理に係る講習会を開催(米穀部・園芸部)

JAアクセラレーター(第4期)採択企業紹介4(経営企画部)

6 あるある! SNSのお悩みと解決策5選(広報・調査部)

7 JAズームイン(石川・JAすずし)

8 米国ダンス大会優勝者へ「ふくしまの米」贈呈(福島県本部)

愛媛県産キウイのおいしさと魅力を全国へ(営業開発部)

JAタウンショップ紹介
しずおか「手しお屋」

Web版JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

Web
限定

「第50回山梨県肉畜鶏卵共進会(肉牛の部)」開催(山梨県本部)

長野県産夏イチゴのショートケーキ販売(JA全農たまご株)

News!

子育て世帯への食料支援に商品を無償提供

子どもを誰一人取り残さないための取り組み

経営企画部

乾麺、調味料などを応援ボックスに提供



新型コロナウイルス感染症拡大が長期化するなか、経済的に厳しい状況に置かれた子育て世帯では、特に、学校の長期休暇中に十分な食事をとることが難しい子どもが増える傾向にあり、このような子どもたちの食の状況を改善するための支援が求められています。

そのため、全農はグループ会社と連携し、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

全農はグループ会社と連携し、子育て世帯を支援するため、(公社)セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンが実施する「夏休み子どもの食応援ボックス」に商品を無償提供しました。



©Save the Children

セーブ・ザ・チルドレンのスタッフと「子どもの食応援ボックス」の食品

【提供商品】乾麺、調味料、飲料、レトルトカレーなど

の「夏休み子どもの食応援ボックス」に商品を提供することで、子どもたちの健康や食生活を守る支援を行いました。

商品を受け取った家庭からは、「思っていたよりも本当にたくさんの食料が入っていて、自分たちは一人じゃないんだ、応援してくれる人がいるんだと感じることができました」など喜びの声がありました。

News!

大学生に全農の輸出事業について講義

明治大学食料貿易論研究室のゼミ生11人が参加

輸出対策部

作山ゼミの学生に講義をする青木統括課長



輸出対策部は7月14日、明治大学食料貿易論研究室(作山ゼミ)の訪問調査を受け入れ、全農の農産物の輸出促進に関する取り組みについて講義と質疑応答を行いました。

明治大学の作山巧教授が担当する農学部食料貿易論研究室のゼミ生11人が参加し、同部の青木健吾統括課長が講義をしました。米・青果物・畜産物などの一次産品は輸出全体の10%程度にとどまるものの、ここ10年間増加している状況などや、産地リレーやライブコマースなど全農グループの取り組み、知的財産権や物流といった課題や、今後環境対応が求められることなどを話しました。

学生からは「コロナ禍やウクライナ情勢で戦略に変化が生じたか?」「マーケットインの具体例は?」などの質問があり、高木克己輸出対策部長が米国・アジアのマーケット情勢を踏まえて回答しました。最後にお土産として海外輸出も始まったニッポンエール商品を全員にプレゼントしました。

学生の一人は「全農の輸出の活動のリアルを知ることができた。将来はぜひ農畜産物輸出の仕事に携わりたい」と感想を話してくれました。

鳥取県産ナガイモ「ねばりっこ」使って新商品

中国地区のセブン-イレブンで3品を販売

鳥取県本部



ナガイモ「ねばりっこ」の商品報告会

鳥取県本部では、ブロッコリー、白ネギも原料供給による商品化を行っており、今後も魅力ある農畜産物を発信していきます。

「ねばりっこ」は鳥取県オリジナル品種で通常のナガイモより強い「ねばり」と「うま味」「コク」が特徴です。県本部はセブン-イレブン・ジャパン、J A鳥取中央などと協議を重ね、いずれも「ねばりっこ」のうま味を感じられる商品に仕上げました。販売開始に合わせ商品報告会も実施。同J A長芋生産部の遠藤部会長は「この商品が多くの方に食べてもらえると思うとうれしい。生産者の生産意欲向上につながる」と話しました。

鳥取県本部が原料供給した、鳥取県オリジナル品種のナガイモ「ねばりっこ」を使用した麦とる井やそばなど3商品の販売が7月19日から中国エリア（岡山県を除く）のセブン-イレブンで始まりまし

仙台市の専門学校生に農業実習を実施

農業の楽しさと生産現場の仕事について学ぶ

全農東北プロジェクト



トマト「アンジェ」を収穫する学生たち

は、生産現場で普段体験することのない農作業を通じ、農業の大事さや大変さを理解し、伝えていってほしいと期待しています。

参加した学生たちは7月25、26日の2日間、宮城県山元町の(株)やまもとファームみらい野で、トマトやピーマンの収穫、タマネギの選別、サツマイモ圃場の除草、イチゴの苗運び、出荷箱の組み立てなどを体験しました。温室ハウス内での作業は、カラーチャートを参考にトマトの収穫時期を見極める難しさを知り、苗運びでは約2000トレーをハウスから予冷库まで移動させる作業を行いました。将来のシエフ・パティシエの卵となる学生に

全農東北プロジェクトは、仙台市の「仙台スイーツ&カフェ専門学校（三幸学園）」の1年生163人を対象に、農作物の生産から収穫、選別までの農業実習を実施しました。

全農グループ総務・人事関連講演会を開催

ライン長ら反社対応・人権課題について考える

総務人事部



第2部での北口副委員長による講演

長は、情報環境の発達に伴い差別事件も爆発的に増加している現状を踏まえ、情報リテラシー教育が今日の最重要課題であることを強調しました。

第1部の「反社会的勢力に対する対応研修会」では、暴力団追放運動推進都民センターより講師を迎え、暴力団等反社会的勢力の現況と不当要求に対する対応について講義していただきました。

第2部「人権・同和に関する講演会」では、講師の北口末広部次郎落解放同盟中央執行副委員長より「激変する社会と差別撤廃——T革命の進化をふまえて——」というテーマで講演していただきました。北口副委員長は、情報環境の発達に伴い差別事件も爆発的に増加している現状を踏まえ、情報リテラシー教育が今日の最重要課題であることを強調しました。

全農は8月4日、東京・大手町のJ Aビルで、「全農グループ総務・人事関連講演会」を開催しました。各部のライン長をはじめ、Web会議システムを通して各事業所や県本部のライン長、子会社の人事担当部長ら約270人が出席しました。

JA施設の衛生管理に係る講習会を開催

経営者・管理者の役割や衛生管理のポイントなど講義

米穀部・園芸部

外部講師による講義



米穀部と園芸部は8月5日、全中と連携し、JAの責任者、県中央会・県連・県本部の担当者を対象に、JA施設の衛生管理に係る講習会について、外部講師を招いてオンラインで開催しました。

令和3年6月から完全施行されている改正食品衛生法により、精米施設については、原則として「HACCP(危害分析重要管理点)に基づく衛生管理」あるいは「HACCPの考え方を取り入れた衛生管理」のいずれかに取り組むことになりました。農業倉庫・カン

トリエレベーターなどや青果物集出荷施設については、HACCP制度化の対象外であるものの、自主的衛生管理を徹底することとしています。

また、消費者の「食の衛生」への関心から、「国産農畜産物の生産・流通を担うJAグループとして衛生管理を実施していく必要があります」。

この研修会は、施設区分ごとに3部で構成され、全国から約270組織の参加のもと、農水省による情勢報告後、外部講師から経営者・管理者の果たすべき役割、衛生管理の取り組みに係る事例や要点などについて講義がありました。

全農は今後も関係機関と連携し、施設の衛生管理の徹底に向けJAを支援していきます。

株式会社Engi

キャンプ場特化型「地産地消」ECプラットフォーム



産地直送のバーベキューセット

(株)Engiの山崎繁幸さんは、2016年にBBQ TERRACEを開業し、全国延べ27店舗を展開した後、同社に参画し、キャンプ場利用者に対して地元農畜産物を味わってもらう「Terroir CAMP(テロワールキャンプ)」を提案しています。

近年はキャンプブームであるものの、その地域に対しての経済効果が小さいという課題から、日本最大のキャンプ場予約

Ag Venture Lab(アグベンチャーラボ)は、スタートアップ企業とJAグループの事業共創の取り組み、JAアクセラレーター第4期で9社を優秀賞として採択しました。今号では1社を紹介します。【経営企画部】

採択企業紹介 ④

JAアクセラレーター(第4期)

サイト「なっぶ」と連携し、キャンプ場利用時に地元の農畜産物を詰め合わせた産地直送のバーベキューセットを予約できるシステムを構築しています。地元の直売所やAコープ店舗から手配・発送することで、店舗の売り上げ向上が見込めること、また4日前までに予約が確定することから、直売所出荷者の安定的な収益の確保にもつながることが期待されます。

6月から始まったプログラム期間では、茨城県、群馬県、千葉県、長野県、沖縄県などの地域の直売所などと、全農・農林中央金庫の伴走者2人とともに交渉中であり、期間中のビジネスモデルの実現に向けて取り組みを進めていく予定です。

あくラボマンスリーでも紹介しています



「第1回全農全日本中学生カーリング選手権大会」開催

初開催!

次世代カーラーをサポート
初の日本一を目指し8チームが熱戦



新潟県新潟市のMGC三菱ガス化学アイスアリーナで8月6〜7日、「第1回全農全日本中学生カーリング選手権大会」が開催されました。全国から8チーム39人が参加し、熱戦を繰り広げました。初代王者には、いわてCA(岩手)が輝きました。【広報・調査部】



「第1回全農全日本中学生カーリング選手権大会」に参加した選手たち

全農は、カーリング大会では恒例の「もぐもぐブース」を設置し、全農の商品ブランド「ニッポンエール」の果実グミやかりんとうを

はじめ、各社提供商品をそろえてエネルギー補給をサポート。選手らは、運動前後に摂取するとよい食材をパネルで確認しながら食材を選び、試合中には栄養補給する姿が見られました。また、副賞として新潟県産米「新之助」と「にいがた和牛」を贈呈しました。

食や練習方法をテーマとした講義も実施

初日は、選手自らに体づくりや食事管理の大切さを意識してもらうことを目的に、今年5月の世界ジュニア選手権で初の金メダルを獲得した山本冨さんが、自身の練習や食事をテーマとした講習をオンラインで実施。また、ロコ・ソラーレをはじめとしたオリンピ



決勝戦で奮闘する選手

若い世代の活躍の場に大澤明美さんが決勝戦を解説



ジュニア世代では中学生の大会のみなかった。小学生の大会はチビリンピックがあり、それ以降やめてしまう選手もいたが、これで最後のパーツが埋まった。カーリング人口の増加にもつながり、若い世代も日本一を目指す大会ができ、素直にうれしい。

アンラから「皆さんは歴史ある第1回大会の出場者。たくさん食べて、たくさん試合をし、刺激し合っている大会になることを祈っています。」

「もぐもぐブース」で選手のエネルギー補給

恒例のもぐもぐブースでは、「とろとろ半熟ゆでたまご」や新発売の「酪王フルーツオレ」、新潟県産の「越後姫ジュレ」ほか各チームの出場県産食材もそろえ、選手のエネルギー補給をサポート。また、休憩中には、将来の夢や目標、食材の感想をボードに書く姿も見られ、「世界一のカーリングプレイヤーになる」「たっだいまスパークリング(新潟県産の飲料)おいしすぎる!」などの声がありました。

全農はこれからも、選手たちの健康づくりやスポーツ選手への育成をサポートしていきます。

試合結果

優勝	いわてCA(岩手)
準優勝	青森CA(青森)
3位	チーム御代田(長野)
4位	札幌協会(北海道)
5位	チーム西日本(岡山)
6位	新潟ジュニア(新潟)
7位	東京都協会(東京)
8位	山梨Jr.(山梨)

賞品提供

全国農協食品(株)、JA全農たまご(株)、協同乳業(株)、酪王協同乳業(株)、JA全農にいがた

決勝大会の様子を「日刊スポーツ」YouTubeアカウントで配信中

全農Twitter「全農広報部スポーツ応援」アカウント



好評だったもぐもぐブース



食材を手に笑顔を見せる選手ら

あるある!

SNSのお悩みと解決策5選

広報・調査部が運営するTwitter「全農広報部【公式】日本の食を味わう」では、2019年7月の開設以来、試行錯誤を重ねながら国産農畜産物の消費推進に取り組んできました。今回は、そのSNS運営の中で経験した悩みと解決方法をご紹介します。【広報・調査部】

悩み① 投稿するネタがない…

解決策 ネットは転がっていないので自ら作るor発掘しています。

デスクに座って待っていてもネタは降ってきません。日本の食を味わうTwitterでは、担当者自ら調理&撮影してレシピを投稿することでネタ作りをしてきました。また、組織内に適したネタがないかを、他の部署などにヒアリングして発掘することも有効です。

悩み② 投稿内容が面白くない…

解決策 他社事例を観察して、良い事例から学んでいます。

自分の頭だけで悩んでいても、アイデアは浮かびません。食品メーカーなど他社の人気なアカウントを観察し、どんな要素が支持されているのかを分析し、自分のアカウント運営にも取り入れていました。

悩み③ フォロワーが増えない…

解決策 過去の投稿を分析することで投稿内容を磨きました。

漫然と投稿を続けるだけではフォロワーは増えません。フォロワーを増やすには何よりも投稿内容が重要です。投稿内容を磨くには、過去の自らの投稿を分析して比較的反響が大きかった投稿の良い要素を分析し、その要素を次に生かすことが近道です。

悩み④ プレゼントキャンペーンを実施するか迷う…

解決策 アカウントや商品を知ってもらうためにキャンペーンは有効ですが、キャンペーン以外の投稿も充実することが重要です。

日本の食を味わうTwitterではキャンペーンを行ったことはなく、フォロワーさんが増えはじめるまで非常に時間がかかりました。初期にキャンペーンを実施し、一定のフォロワーさんを確保した中で自投稿を磨いていってもよかったと考えています。ただし、やみくもにキャンペーンを乱発するのではなく、キャンペーンで増やしたフォロワーさんに対してどのような情報発信をしていくのかをきちんと計画することが重要です。

悩み⑤ 炎上が怖い…

解決策 投稿内容は、読者の立場に立って見直しています。そのうえで別の職員がダブルチェックしています。

注目してほしいという思いが強くなるあまり、誰かを不快にさせたり傷つけたりする投稿内容を考えてしまうことがあるかもしれません。それを軌道修正するために、投稿内容を作成したら発信者ではない一読者の立場になって投稿を見直しています。その上で、別の職員が読んでダブルチェックすることで、不適切な投稿を防いでいます。

組織のSNS運営は、面白さと堅実さのバランスが難しいですが、継続する中でバランス感覚も養われます。ともに頑張っていきましょう。

Before

開設当初の投稿

自らコンテンツを作ることなく、時節に絡めて既存コンテンツを紹介するだけでした。

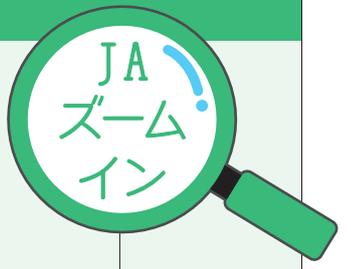


After

最近の投稿

1ツイート完結型でレシピ提案をしています。お悩みを提示してから解決方法を提案する文型で読者の興味を引く工夫。





環境と調和した「能登米」ブランド化 園芸品の品質向上と拡大も目指す

石川県のJAすずしは能登半島の先端に位置し、管内では今もなお美しい里山と里海が保たれています。また、能登地域は世界的に重要な伝統的農林水産業を営む地域として、2011年には「能登の里山里海」が世界農業遺産（GIAHS）の



出荷量が増えているブロッコリー

認定を受けました。これを契機に米については能登地域の6JAが連携し、統一栽培指針に基づくエコ栽培を基本とし、地域特性を生かした能登ならではの環境や生活と調和した田んぼづくりを実践した「能登米」のブランド化に取り組んでいます。

出荷量増えるブロッコリー 近隣JAと施設の 共同利用も

園芸品目産地づくりの取り組みでは、産地として市場評価の高い珠洲産「えびす南瓜」、「ブロッコリー」をはじめとした園芸品目のさらなる品質向上と生産量増大を目指し、品目別に栽培研修会の実施と圃場現地巡



能力を増強したブロッコリーの製氷設備

回による個別指導や有用な営農情報の提供を行っています。

ブロッコリーでは近年、産地規模の拡大により出荷量が増加していることから、品質と鮮度保持に向け、製氷設備の能力増強に合わせて選果ラインとの一体化を実施しました。また、昨年は選別能力向上のため選果機

JAすずし (石川県)



選別能力が向上し近隣JAと共同利用する選果ライン



の更新に加え、近隣JAの生産者もJAすずしの選果施設を利用できる体制とし、JA域を超えた共同利用を行っています。

特産小豆「能登大納言」 県産ブランド 「百万石の極み」

珠洲市の特産で地域ブランドに位置付けられている



県産ブランド農林水産物の「能登大納言」(石川県提供)

大納言小豆は、全国に数ある大納言小豆の中でも粒の大きさと宝石のような鮮やかな赤い色が特徴の小豆で「能登大納言」として地域団体商標登録し生産・販売しています。また、今年8月には石川県の県産ブランド農林水産物20品目の一つとして「百万石の極み」に認定されました。今後、さらなるブランド価値の向上と生産者の所得向上につながることを期待しています。

概要	(2021年12月31日現在)
正組合員数	2924人
准組合員数	1276人
職員数	105人
販売品取扱高	8億4千万円
購買品取扱高	13億8千万円
貯金残高	334億5千万円
長期共済保有高	1064億9千万円
主な農畜産物	米、カボチャ、 ブロッコリー、小豆、大豆、 原木シイタケ、スイカ、生乳、肉牛、山菜

※前年度の事業年度末実績、事業実績は1千万円単位(百万円単位の四捨五入)

米国ダンス大会優勝者へ「ふくしまの米」贈呈

高校生・一条末悠さんの歴史的快挙を祝福

福島県本部は、米国ロサンゼルスで開催された同国で最も歴史があるダンス大会で日本人として初の優勝を果たした、福島東稜高校3年の一条末悠さんへ県産「ふくしまの米」1年分を贈呈しました。

【福島県本部】

7月に開かれた「Showstopper FINAL(ショーストッパー・ファイナル)」は、世界的な人気歌手のピョンセやセレーナ・ゴメスらを輩出している大会であり、ダンサーにとっては憧れの舞台です。

米国の選手を中心に世界各地の予選を勝ち抜いた約2000人が、ソロやデュエットなどの部門に出場。一条さんは日本代表としてソロシニア部門(15~19歳)で日本人初の優勝を飾り、クリスタル賞やオーバーオール賞なども受賞し3冠に輝きました。

県本部は、コロナ禍で行動が制限された環境の中でも、自分の夢をつかむため



一条さんに1年分の米を贈呈する金成広之の副部長(右)

必死に頑張り勝ち取った世界一のお祝いとして、「ふくしまの米 約1年分(60kg)」を贈りました。

愛媛県産キウイのおいしさと魅力を全国へ

ニッポンエールプロジェクト「愛媛県産キウイ」8月29日発売

全農は、農業支援の取り組み「ニッポンエールプロジェクト」で、清涼飲料水「ニッポンエール 愛媛県産キウイ」を商品開発しました。共同開発した(株)伊藤園が8月29日に発売します。

【営業開発部】

伊藤園とは、ニッポンエールプロジェクトが目指す「農業の持続性を高め、国産農作物のおいしさや品質の良さを広めていきたい」という思いを共にし、全国の特色ある農産物を使用した清涼飲料水を共同開発

してきました。

この商品は愛媛県産キウイフルーツのすっきりとした香りと甘酸っぱい味わいが楽しめる清涼飲料水です。一つずつ丁寧に手摘みされ、大切に育てられた国産のキウイフルーツを多くの人に知ってもらいたいという、農家の期待に応じて開発しました。この商品を通し、愛媛県産キウイフルーツのおいしさと魅力を全国に届けることで、生果の販売拡大につなげて生産者を応援します。



8月29日発売の「ニッポンエール 愛媛県産キウイ」

ニッポンエールプロジェクトについてはこちら



500g・ペットボトル / 151円(税別140円)

JA全農のインターネットショッピングモール

JAタウン ショップ紹介

しずおか「手しお屋」

南は駿河湾、北は南アルプス、東には富士山と、豊かな自然に恵まれた静岡県。その中部に位置するJA大井川のファーマーズマーケット「まんさいかん」よりお届けする、静岡野菜の詰め合わせセットです。

セット内容は、発送日の朝に生産者が直接運び入れた新鮮なニンジン、トマト、バレイショ、トウモロコシ、お茶などを厳選し、ボリュームたっぷりお詰めします。中身は開けてからの楽しみです。

※旬の野菜をお届けしますのでご注文時期によって中身が異なります。



静岡野菜詰め合わせ【笑顔お届けまんさい箱☆】……4800円(送料・税込み) ※別途クール代金が必要です。

ご注文はこちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com